授業科目等の概要

（医療専門課程理学療法学科）平成25年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	人間理解の基礎知識を得る。性質・欲求等の心理的欲求を分析できる能力を身につける。	1・前	15	1	○			○			○	
○			倫理学	人間として生命の尊厳、守るべき道を学び、医療人としての倫理観を養う。	1・前	15	1	○			○			○	
○			日本語表現法	基本的な日本語表現について学ぶ。さらに論文や症例報告書などに応用する。	1・前	15	1	○			○			○	
○			社会学	人間の社会的共同生活の構造や機能について学ぶ。社会的に医学や医療スタッフの果たしている、役割を知る。	1・前	15	1	○			○			○	
○			教育学	臨床に必要な教育学を学ぶことで心の姿を知る。	1・前	15	1	○			○			○	
○			人間関係論	医療現場のみでなく、人間関係の基礎となるコミュニケーション能力を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			物理学	現場に役立つ、力学、熱、波と音、光、電磁波等の基礎や、生体と物理学の関わりについて学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			生物学	生物の生命現象、生命維持に必要な生体の働きや生命のメカニズムを知る。	1・前	30	2	○		△	○			○	
○			情報処理学	基礎的なパソコン操作と統計処理、理学療法に必要なデータ編集・構成能力を身につける。	1・前	15	1	△		○	○			○	
○			統計学	理学療法で得たデータの統計処理法、検討方法を学ぶ。	1・後	30	2	△		○	○			○	
○			レクリエーション実技Ⅰ	スポーツを通じて心身の健康を保つ。またレクリエーション活動の方法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○			○	

○			医学英語	臨床で必要な医学用語、洋書論文の読解力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ-1	人体の骨・関節・筋・靭帯、神経を中心に臓器の位置、構造、機能について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅰ-2		1・後	30	2	○			○		○	○	
○			解剖学Ⅱ		1・前	60	4	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ		1・後	60	4	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	理学療法に必要な骨・筋・神経・呼吸生理を重点的に生体機能のメカニズムを学ぶ。	1・前	60	4	○		△	○			○	
○			生理学Ⅱ		1・後	60	4	○		△	○			○	
○			運動学Ⅰ	解剖学・生理学・物理学を基礎に生体力学、関節運動について学ぶ。	1・前	45	3	○			○		○		
○			運動学Ⅱ		1・後	45	3	○			○		○		
○			病態運動学	基礎医学の知識のもとに、疾患によりどの様に身体活動が変化するかを学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
○			運動学実習Ⅰ	人体の運動について知り、体表解剖、動作分析について学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○		
○			運動学実習Ⅱ		2・前	45	1	○			○		○		
○			人間発達学	正常な人間の発達過程、身体面、精神面、社会面を学ぶ。	1・後	15	1	○			○		○		
○			病理学概論	病気の原因と成り立ちを学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	

○			臨床心理学	人と専門的に接する技能を身につけ、心理学的な問題点の把握と援助法を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○			一般臨床医学	臨床医学にたずさわるために必要な基礎知識を全般的に学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○			内科学	内科の症候、病態生理への理解を深め、診断及び最新の治療法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
○			老年学	加齢に伴う症候を知り、高齢者医療と専門分野での評価・治療に結びつける。	2・後	30	2	○			○			○	
○			整形外科学Ⅰ	整形外科の疾患を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。Ｘ線等や手術等の治療法を知る。	2・前	30	2	○			○			○	
○			整形外科学Ⅱ		2・後	30	2	○			○			○	
○			神経科学Ⅰ	中枢・末梢性神経疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。	2・前	30	2	○			○			○	
○			神経科学Ⅱ		2・後	30	2	○			○			○	
○			精神医学	精神疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価に結びつける。	2・後	30	2	○			○			○	
○			小児科学	小児疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。	1・後	15	1	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの社会・医療との関わりを理解し、障害論の基礎を学ぶ。	1・前	30	2	○		△	○		○		
○			公衆衛生学	地域理学療法を進める上で、必要な公衆衛生の基礎を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			理学療法学概論	理学療法学の全体を把握する。保健・医療・福祉における理学療法について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
○			運動療法学概論	運動療法の歴史・定義・目的と基本理念を理解し、基礎技術を習得する。	1・後	15	1	○			○		○		

○			物理療法学概論	物理療法の歴史と臨床的意義を理解し、各論への導入をする。	1・前	15	1	○		△	○		○		
○			臨床運動学	姿勢・動作の観察と分析を行い、正常な運動を阻害する因子とその影響を理解する。	2・後	30	2	○			○			○	
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法における評価の概念を理解する。関節可動域測定・形態測定・血液測定の意義・目的と実技について学ぶ。	1・後	30	1	○		△	○		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	視診・触診のための体表解剖を学習し、徒手筋力検査法の意義・目的と実技について学ぶ。	1・後	45	1	○		△	○		○		
○			理学療法評価学Ⅲ	神経系の検査・測定の意義・目的と実技について学ぶ。	2・前	60	2	○		△	○		○		
○			理学療法評価学Ⅳ	内部疾患の検査・測定の意義・目的と実技について学ぶ。	2・前	30	1	○		△	○			○	
○			物理療法学	物理療法の生体への影響、特徴、適応と禁忌、使用方法を実技を交えて学習する。	1・後	45	3	○		△	○		○		
○			義肢学	義肢義足及び切断者のリハビリテーションについて学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○			○	
○			装具学	上肢装具、下肢装具、自助具について学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○			○	
○			日常生活活動学Ⅰ	日常生活動作を理解し、各障害との関連・評価・指導法を学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○		○		
○			日常生活活動学Ⅱ		2・後	45	1	○		△	○		○		
○			運動療法学	関節可動域改善、筋力増強、持久性、協調性などの目的に合う運動療法の基礎を修得する。	2・前	60	2	○		△	○		○		
○			理学療法治療学Ⅰ（運動疾患・含むスポーツ障害）	整形外科疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	4	○		△	○			○	
○			理学療法治療学Ⅱ（呼吸障害）	呼吸障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○			○	

○			理学療法治療学III（循環・代謝障害）	循環・代謝障害の障害理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	15	1	○		△	○			○	
○			理学療法治療学IV（脳血管障害）	脳血管障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	4	○		△	○			○	
○			理学療法治療学Ⅴ（難病・神経疾患）	難病・神経疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○			○	
○			理学療法治療学VI（小児疾患）	小児疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○		○		
○			理学療法総合演習Ⅰ	評価手技・治療手技についての復習を実技中心に行う。	2・前	60	2	△	○		○		○		
○			理学療法総合演習Ⅱ		2・後	60	2	△	○		○		○		
○			理学療法総合演習III		3・後	180	6	△	○		○		○		
○			地域理学療法学	現在の保健・医療・福祉制度について理解し、在宅支援するための基礎知識を学ぶ。	2・前	15	1	○			○			○	
○			地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの概念と、その方法、業務について理解する。	2・前	15	1	○			○			○	
○			生活環境学	障害と住環境、福祉機器、介助法の関わりと実際を理解する。	2・前	30	2	○			○			○	
○			臨床実習Ⅰ	理学療法業務を観察し、必要な資質と能力を考える。	1・後	45	1			○		○			○
○			臨床実習Ⅱ(検査・測定)(評価)	学校で学んだことを土台に臨床の場で、評価および記録と報告を実践する。	2・後	180	4			○		○			○
○			臨床総合実習Ⅰ	学校で学んだことを土台に臨床の場で、評価、分析、治療実践を行う。知識・技術・態度の全体的向上を図る。	3・前	315	7			○		○			○
○			臨床総合実習Ⅱ		3・後	315	7			○		○			○

		○	障害者スポーツ論	障害者スポーツの概要と実際について学び、実技としてはレクリエーションを重視してとり組む。	1・後	15	1	△		○				○	
		○	レクリエーション概論	レクリエーション活動を通してレクリエーションの意義・役割を理解する。(レクリエーションインストラクター資格取得可)	1・後	15	1	△		○				○	
		○	レクリエーション実技Ⅱ		2・前	30	1	△		○				○	
合計				70科目	3105単位時間									(144単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	17週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。